

令和5年12月22日

保護者様

北九州市立広徳中学校
校長 児島 誠

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

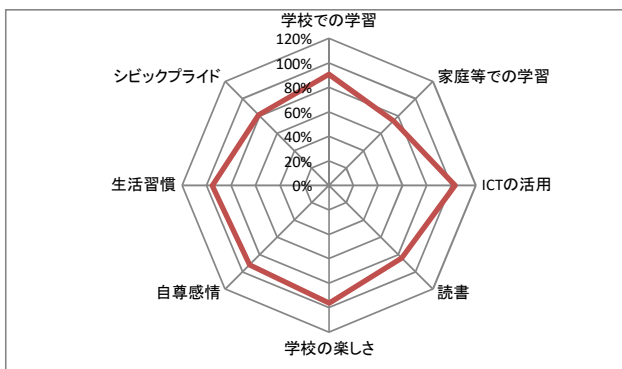
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	・読むことの内容では、正答率が高かった。 ・言葉の特徴や使い方に関する正答率が低く、文脈に即した漢字を誤って答えている傾向にある。	下回っている
数学	・数と式、関数については正答率が高く、理解できている。 ・図形の領域では、根拠をもとに証明する記述の正答率が低く、苦手な傾向にある。	下回っている
英語	・読むことの領域では、日常的な話題について文章の概要をとらえる問題の正答率が高かった。 ・情報を正確に聞き取ったり、肯定文や疑問文を正確に書く内容の正答率が低く、聞くこと、書くことが苦手な傾向にある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・「学校に行くのは楽しいと思う」「友達関係に満足している」との問いに対して約80%の生徒が肯定的に回答しており、学校生活の楽しさを感じている生徒が多い。
・PC・タブレットなどのICT機器を使った授業の頻度が高く、学習に効果的であると約95%が回答しており、効果的に働いている傾向にある。
・「学校の授業以外にどれくらいの時間勉強しますか」との問いに1時間未満と回答した割合が多く、家庭学習にかけられる時間が少ない傾向にある。今後は、家庭学習の充実に向けた取り組みを啓発していく。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・自らの考えを広めたり深めたりできる子どもの育成を目指し、授業でのめあて、振り返り、話し合い活動を充実させ、アクティブラーニングの定着を図る。
・各教科、領域の単元で効果的なICT活用を検証し、自分の意見を表現したり、仲間の考えを共有できるような授業を多く取り入れることにより、理解力、表現力を高めるように努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の定着に向けて、自主学習ノート（Kワーク）の徹底、活用を周知する。
・早寝早起き朝ごはんの定着を図るとともに、携帯電話の使い方やルールについての情報提供や啓発活動を発信する。
・学校ではビブリオバトル等を通して読書の楽しさを推進していき、家庭でも機会を捉えて本に親しむ習慣づくりができるような情報発信を行う。